

学科名 介護福祉学科

	授業科目名	授業時間数	授業単位数	担当講師	■実務経験と授業内容への活用
1	人間の尊厳と自立	30	2	岸本 恭子	実務経験と授業内容を結びつけて学ぶことで、社会に出ると、倫理観や尊厳、自立の捉え方が人によって大きく異なることを実感する。その違いを理解したうえで、介護福祉士という専門職として、どのように考え、どのように行動するべきかという基礎を身につけたい。現場での経験と学びを重ねながら、自分自身の価値判断基準や支援の軸を確立していくことが、専門職としての成長につながると考える。ここでは学びの部分の基礎力を養成する。
2	人間関係とコミュニケーションⅠ	30	2	関根 一春	高齢者・障害者分野にて、在宅・施設で20年勤務してきた実務経験にもとづき、対象者本人・家族、ケア提供をおこなうチーム・メンバーとのかかわり方やコミュニケーションのあり方などを含めて講義する。
3	人間関係とコミュニケーションⅡ	30	2	関根 一春	高齢者・障害者分野にて、在宅・施設で20年勤務してきた実務経験にもとづき、対象者本人・家族、ケア提供をおこなうチーム・メンバーとのかかわり方やコミュニケーションのあり方などを含めて講義する。
4	高齢者福祉と障害者福祉	30	2	片桐 正善 半田 仁	片桐：相談支援や直接介助の現場経験（あるいはこれまでの指導経験）に基づき、単なる法律の暗記ではなく、「なぜこの制度が必要なのか」「サービス利用時に現場で起こりやすい課題は何か」といった、実習や就職後に直結する生きた事例を講義に組み込む。 半田：通所介護および特別養護老人ホームにて介護職員として携わった際の社会の理解における高齢者の現状と今日的課題をとらえることの重要性を具体例として講義や演習の中にして活かしていく。
5	介護のための心理と音楽	30	2	平野 夏子 堀江 栄利子	平野：音楽療法士として30年以上にわたり介護施設および認知症病棟で音楽療法を実践し、豊島区認証の認知症カフェにおいても音楽を活用した実践を行ってきた。この経験をもとに、介護の現場で音楽を有効に活用する方法を、体験的・実践的な授業の中で学んでもらう。 堀江：高齢者福祉では介護福祉士としてBPSD支援等に、ケアマネジャーとしてアセスメントや多職種連携に従事しました。心理分野では、児童心理治療施設での支援や公認心理師として心療内科でのカウンセリングに携わってきました。現場経験と心理職の多角的な視点から、留学生にも理解しやすい表現で学習支援を行い、即戦力となる福祉人材を育成します。
6	介護の基本Ⅰ	30	2	野澤 美和	介護福祉士として現在に至るまで長く介護現場で勤めてきた為、現場において尊厳を大切にしたいケアを考え実践してきた。尊厳と自立とは何かという部分を具体的に示しイメージを持たせることができる。また、介護保険制度が始まる前から介護職として勤務してきたため、介護保険前と施行後、そして現在までの変遷について伝えることができる。
7	介護の基本Ⅱ	30	2	野澤 美和	介護福祉士として現在に至るまで長く介護現場で勤めてきた為、現場において尊厳を大切にしたいケアを考え実践してきた。尊厳と自立とは何かという部分を具体的に示しイメージを持たせることができる。また、介護保険制度が始まる前から介護職として勤務してきたため、介護保険前と施行後、そして現在までの変遷について伝えることができる。
8	コミュニケーション技術Ⅰ	30	1	森 伸彦	介護福祉士として26年以上、介護支援専門員として18年以上にわたり施設・在宅の双方で実務を経験してきた。また、おだい介護サービスにてクオリティマネジャーとして事業全体のサービス品質管理を担当し、現場の実践と組織運営の両面からケアを捉えてきた。これらの経験を授業内容に整理し、学生が現場で実践しやすい形で伝えていく。
9	生活支援技術Ⅰ	60	2	細野 真代 白崎 剛也	現場での実務経験を活かし、教科書通りの手順を教えるだけでなく、現場の風景が見えるリアルな指導を行い、根拠と共に学びを深められるような授業を展開する。実体験に基づいた危険な場面を反面教師として提示し、安全管理に対する意識を高め、質の高い介護に繋げる。教員の経験を活かし、学生が最も間違いやすい、理解に時間がかかる部分をポイントに焦点を当てた段階的な指導を行う。
10	生活支援技術Ⅱ	90	3	細野 真代 白崎 剛也	現場での実務経験を活かし、教科書通りの手順を教えるだけでなく、現場の風景が見えるリアルな指導を行い、根拠と共に学びを深められるような授業を展開する。実体験に基づいた危険な場面を反面教師として提示し、安全管理に対する意識を高め、質の高い介護に繋げる。教員の経験を活かし、学生が最も間違いやすい、理解に時間がかかる部分をポイントに焦点を当てた段階的な指導を行う。教員の職種の違いを生かし、専門性の理解、他職種連携の方法など知識を統合化できる授業を行う。
11	介護過程Ⅰ	30	1	野澤 美和	老健での勤務が長く、介護計画書の立案と在宅復帰の関係性については老健を対象に研究し立証している。介護過程の展開は、介護福祉職として利用者の生活やその方自身の人生を豊かにしていくことの楽しさについて伝えていきたい。
12	介護過程Ⅱ	30	1	野澤 美和	老健での勤務が長く、介護計画書の立案と在宅復帰の関係性については自ら老健を対象に研究し立証している。介護過程の展開は、介護福祉職として利用者の生活やその方自身の人生を豊かにしていくこの楽しさについて伝えていきたい。
13	介護総合演習Ⅰ	30	1	野田 朋法	介護福祉士及び福祉領域関連資格、看護師資格を有する教員が、福祉施設や病院における介護が必要とされる方への実務経験を活かして介護福祉士の資格を取得する為の実習の目的や意義について教授をする。
14	介護総合演習Ⅱ	30	1	野田 朋法	介護福祉士及び福祉領域関連資格、看護師資格を有する教員が、福祉施設や病院における介護が必要とされる方への実務経験を活かして介護福祉士の資格を取得する為の実習の目的や意義について教授をする。
15	介護実習Ⅰ	120	4	齋藤 美由紀 細野 真代 八子 久美子 白崎 剛也 水本 侑人 野田 朋法 麻貴 久枝 木村 久枝	介護・医療の現場を経験した教員による指導。
16	介護実習Ⅱ	120	4	齋藤 美由紀 細野 真代 佐藤 修 野田 朋法 白崎 剛也 水本 侑人 竹内 麻貴 木村 久枝 岡本 啓介 八子 久美子 野田 朋法	介護・医療の現場を経験した教員による指導。
17	発達と老化の理解Ⅰ	30	2	水本 侑人	高齢者施設、総合病院、保育園、児童精神科で看護師として計12年勤務。乳児から高齢者を対象とした支援をしていく中で得た知見に基づき、発達と老化の理解を教授する。
18	発達と老化の理解Ⅱ	30	2	水本 侑人	高齢者施設、総合病院、保育園、児童精神科で看護師として計12年勤務。乳児から高齢者を対象とした支援をしていく中で得た知見に基づき、発達と老化の理解を教授する。
19	認知症の理解Ⅰ	30	2	近藤 真名美	現場で対応した認知症者とその家族の実例、自身の親の介護で経験したことを話すことで、より現実感を伝える。
20	障害の理解Ⅰ	30	2	長谷部 裕美	介護福祉士として、高齢者の施設生活・障害者の在宅生活の支援、その他社会活動を行ってきた。その経験をいかして、制度や専門用語の暗記ではなく、時代背景や現場での活用イメージまで理解を深められるよう、実例を踏まえながら講義を展開する。
21	こころとからだのしくみⅠ	30	2	八子 久美子	看護師として大学病院で3年、訪問看護ステーションで訪問看護師、介護支援専門員として8年の実務経験を生かし、健康であることの心と体の仕組み、実践現場でかかわった様々な疾患の特徴や、生活への影響を伝え、それらの経験を心と体の基礎知識をもとに、生活との関連で理解できるように活用する。
22	こころとからだのしくみⅡ	60	4	八子 久美子	看護師として大学病院で3年、訪問看護ステーションで訪問看護師、介護支援専門員として8年の実務経験を生かし、健康であることの心と体の仕組み、実践現場でかかわった様々な疾患の特徴や、生活への影響を伝え、それらの経験を心と体の基礎知識をもとに、生活との関連で理解できるように活用する。
23	福祉とキャリア	30	2	齋藤 美由紀	介護福祉士、介護支援専門員として、長年介護現場に従事してきた様々な経験を通して、実際の介護現場において必要な応用知識を学ぶ授業とする。ここでは、理想論だけでなく現実論も重視し、多職種連携の観点から外部講師を招き、基礎知識から応用知識へと発展させていく学びとする。
24	ホスピタリティ	30	2	翼会	担当の経験をもとに、実際に起こり得る事例を取り上げながら授業を展開する。理論だけでなく、言葉や態度が相手に与える影響について具体的に示すことで、学生が現実的なイメージを持てるよう工夫する。また、成功例だけでなく課題や失敗から学ぶ視点も共有し、実習や将来の業務に活かせる実践的な学びにつなげる。

25	生活と福祉	30	2	木村 久枝	介護福祉士、看護師教育の実務経験30年以上をもとに、地域社会で支援する福祉と医療の知識を活かし、地域社会で過ごされる人々の現状と福祉の関わりを、生活の支援者である介護福祉士の専門性をふまえて教授します。
26	社会保障制度	30	2	森 長秀	さまざまな支援活動や行政救済制度に各種委員（オンブズマン、苦情処理制度等）として関与してきた知見を、講義内容に取り入れた授業を展開する。
27	介護の基本Ⅲ	60	4	細野 真代	教員自身の介護老人保健施設等での実務経験を活かし、実際の現場を想定した具体的な事例（認知症の方や障害のある方の「生活のしづらさ」など）を多用します。単なる制度や理論の暗記にとどまらず、「人間の尊厳と自立」の視点から、現場で介護福祉士に求められる視点（着眼点）や専門性を実践的に解説します。これにより、「生活支援技術」などの演習科目の根拠となる理論を、現実の支援と結びつけて理解させます。
28	介護の基本Ⅳ	60	4	細野 真代	教員自身の介護老人保健施設等での実務経験を活かし、実際の現場を想定した具体的な事例（認知症の方や障害のある方の「生活のしづらさ」など）を多用します。単なる制度や理論の暗記にとどまらず、「人間の尊厳と自立」の視点から、現場で介護福祉士に求められる視点（着眼点）や専門性を実践的に解説します。これにより、「生活支援技術」などの演習科目の根拠となる理論を、現実の支援と結びつけて理解させます。
29	コミュニケーション技術Ⅱ	30	1	森 伸彦	介護福祉士として26年以上、介護支援専門員として18年以上にわたり施設・在宅の双方で実務を経験してきた。また、おだい介護サービスにてクオリティマネージャーとして事業全体のサービス品質管理を担当し、現場の実践と組織運営の両面からケアを捉えてきた。これらの経験を授業内容に整理し、学生が現場で実践しやすい形で伝えていく。施設や在宅の現場などで培ってきた経験と技術を偏りのない普遍的な内容に置き換え、現場で活用できる術を教える。
30	生活支援技術Ⅲ	90	3	宮里 裕子 近藤 真奈美 長谷部 裕美 徳山 慈久	介護福祉士、看護師、介護支援専門員等として、長年、介護現場に従事してきた教員が実技演習を担当する。さまざまな経験や実際の介護実践事例を示しながら、学生が学ぶ知識や技術を介護実践においてどのように活かしていくのか、その方法と実践力を身に付ける授業を展開する。
31	生活支援技術Ⅳ	60	2	藤原 記代子	藤原：管理栄養士として、病院や社会福祉施設、栄養士養成施設で従事した経験を活かし、「健康に生きること」を「食」を通して一緒に考え実践に繋げていく。職業人として、対象者のみならず、受講者自身のQOL向上が図れるような視点をも養って頂きたい。
32	介護過程Ⅲ	60	2	佐藤 修	介護現場での実務経験および介護職員研修の講師経験を踏まえ、実際の生活場面を想定した事例を用いて授業を行う。現場での実践例を交えながら、利用者の生活状況を整理し課題を考える視点を示し、介護過程の思考プロセスを理解できるよう指導する。また、事例演習やワークシートを活用し、実習での経験と結びつけながら、生活場面から課題を整理し支援を考える力を養う。
33	介護過程Ⅳ	30	1	佐藤 修	実務における具体的な支援場面を例示しながら、抽象的な概念を現実の状況に結び付けて理解できるようにする。また、実践で生じる判断の揺らぎや葛藤を共有し、学生が自身の判断過程を言語化する手がかりとする。
34	介護総合演習Ⅲ	30	1	佐藤 修	介護現場および介護教育の実務経験をもとに、実習記録の書き方や利用者理解の視点を具体例を用いて解説する。現場経験を共有し、実習において活用できる実践的理解を促す。
35	介護総合演習Ⅳ	30	1	佐藤 修	実務における多様な判断事例を提示し、単一の正解ではなく状況に応じた判断の必要性を理解させる。また、現場で実際に起こる視点の違いや判断の揺らぎを共有し、学生が自らの思考を見直す契機とする。
36	介護実習Ⅲ	210	7	齋藤 美由紀 細野 真代 佐藤 修 八子 久美子 野田 朋法 白崎 剛也 水本 侑人 竹内 麻貴 木村 久枝	介護・医療の現場を経験した教員による指導。
37	認知症の理解Ⅱ	30	2	水本 侑人	高齢者施設、精神科病棟、総合病院で看護師として計12年勤務。認知症や精神疾患のある高齢者を対象とした支援をしていく中で得た知見に基づき、認知症の理解を教授する。
38	障害の理解Ⅱ	30	2	大石 恵子	看護師として30年以上、急性期病棟・療養型病棟・緩和ケア病棟・訪問看護・介護施設など多様な現場で、さまざまな障害のある人と関わってきた経験をもとに、実際の事例や現場での気づきを交えながら、障害の理解と支援のあり方を具体的に伝える。
39	こころとからだのしくみⅢ	30	2	木村 久枝	介護福祉士、看護師教育の実務経験30年以上をもとに、「こころとからだのしくみ」「発達と老化の理解」「障害の理解」などを包括し、生活の支援者である介護福祉士の専門性をふまえて教授します。
40	医療的ケアⅠ	60	3	中嶋 たまみ 近藤 真奈美	看護の基礎知識・専門知識を学生の知識の習得に活かす臨床や在宅支援での経験や知識を手技・手順の活用に活かす。
41	医療的ケアⅡ	60	3	中嶋 たまみ 近藤 真奈美 田中 典枝 宮崎 弘美 竹内 麻貴 古田 由美子 加我 愛	看護の基礎知識・専門知識を学生の知識の習得に活かす臨床や在宅支援での経験や知識を手技・手順の活用に活かす。
42	介護の応用	30	2	学科専任	介護・医療の現場を経験した教員による指導。
43	高齢者自立支援介護	30	2	根岸 広英	特別養護老人ホーム、通所介護、訪問介護、グループホーム、有料老人ホームにて介護職、ケアマネ、生活相談員、施設長、本部管理職（教育・運営指導）として17年以上勤務。自立支援介護を実践し特養で便失禁ゼロ、下剤ゼロ、在宅復帰、経管栄養から常食化、介護度改善などを行ってきた。今までの実務経験を活用し、自立支援介護の事例を紹介しながら講義を行う。
44	介護福祉総合学Ⅰ	30	2	野田 朋法 細野 真代	野田：介護福祉士及び福祉領域関連資格、看護師資格を有する教員が、福祉施設や病院における介護が必要とされる方への実務経験を活かして介護福祉士の資格を取得する為の実習の目的や意義について教授をする。 細野：介護福祉士の教員として20年間の経験から、身体・精神上的の障害により日常生活が困難な方々を支える専門職として、介護福祉士に求められる一定の基準を満たした知識と技術の習得ができるような指導を行う。特に留学生の特性に配慮し、専門用語の深い理解と事例検討を通じた思考プロセスの構築に重点を置き、資格取得に向けた総合的な指導を行います。
45	介護福祉総合学Ⅱ	30	2	岸本 恭子 野田 朋法	本試験の分析結果や解答解説の蓄積を活かした学習を行い、頻出問題や事例問題に対応できる力を身につけることを目指す。これらの学習を通して、知識の定着だけでなく、状況に応じて適切に判断し解答できる応用力を養う。
46	同行援護従事者養成研修（一般）	30	2	学科専任	介護・医療の現場を経験した教員による指導。
合計		46	2100	102	